

大学生のアルバイト経験による感情労働と就業動機に関する研究

スポーツ経営組織学ゼミナール 1313065 山田 加奈子

1. 研究動機・研究目的

学校は、個人が一職業人として社会に参入するための準備をする場であることや、この時期に大学生は、学業や余暇活動を通して職業の探索や職業選択を行う (Super,1957) とされている。

ところが、近年大学を卒業しても働かない学卒無業者などが増加している。大学生が自ら職業を決定することが出来ない職業未決定 (vocational indecision) は 1960 年代以前から大学生がもっとも訴える問題の一つであった (Osipow,1999)。

そこで、大学生の学校から職業社会への移行を潤滑する方法として効果的な手段の一つがアルバイト活動であり (関口、2012)、社会人として働くのに必要な初歩的な能力やスキルを身に着けたりすることが可能である (佐野 2004)。

一方でサービス経済化に伴い、肉体労働や頭脳労働と並んで、職業の遂行に労働者自身の感情管理が求められる労働形態が注目を集めている (須賀,2009)。これを感情労働 (Hochschild,1983) といい、仕事の一部として組織に望ましい感情に自らを調整する心理過程と定義した。

このように、感情労働は大学生のアルバイトでも経験する労働形態であることや、アルバイトが職業社会への移行を潤滑にすることが考えられていることから本研究では大学生が経験するアルバイトでの感情労働と職業選択動機の関連性を明らかにする。

2. 研究方法

【調査対象】 就職活動を控える大学 3 年生 (n = 297)

【調査期間】 2016 年 9 月 27 日から 2016 年 10 月 15 日

【調査方法】 フェイスシート

感情労働尺度日本語版

就業動機尺度

3. 主な結果と考察

①頻度に関しては、探索志向との間に 1%水準の相関が示され、対人志向との間に 5%水準の相関が示された。

②強度に関しては探索志向、対人志向との間に 5%水準の相関が示された。

③種類に関しては、探索志向との間に 5%水準の相関が示された。

④表層演技に関しては、探索志向との間に 1%水準の正の相関、上位志向、挑戦志向、就業動機尺度の合計点との間に 1%水準の負の相関が示された。

⑤深層演技に関しては、探索志向との間に 1%水準の相関が示され、対人志向との間に 5%水準の相関が示された。

- ⑥「頻度」については勤務年数が3年のほうが1年未満よりも有意に高い得点が示された。また、勤務年数3年のほうが2年よりも有意に高いことが示された。
- ⑦「探索」については勤務年数が3年のほうが1年未満よりも有意に高いことが認められた。

4. 結論

実際に抱いた感情を抑制し、あるいは別の感情を抱いているように振る舞うことによって自分の外面的な感情表出を行う表層演技を頻繁に行っている大学3年生ほど、社会的地位や名声を得ようとする傾向や、困難な作業に挑戦して仕事によって自己成長しようとする傾向があることや、将来関わる仕事に関する情報を収集するなど職業に対する積極的な姿勢がある傾向が存在することが示唆された。文献考証の中では、表層演技は自己不一致な感情表現を行わなければならないために大きな労力が必要だといわれており、労働者の職務満足感の低下やバーンアウトにおける表層的消耗感の促進といったネガティブな研究結果が示されているが、本研究の就業動機との間では、ポジティブな結果が得られた。

さらに、勤務年数に加え、性別やアルバイトの種類に応じて感情労働と就業動機に差が生じるため、大学3年生の属性に応じた感情労働と就業動機を把握する必要性が示唆された。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文の執筆にあたり、多くの皆様のご指導ならびにご支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。指導教官である水野基樹准教授には本研究に関して大学3年次の卒業論文中間発表の時より、本日に至るまで親切かつ、こと細かなるご指導ご指摘をして頂きました。2年間のゼミナール活動を通して先生から、組織でのあり方や人に対する心遣いや誠意、社会人基礎力など多くのことを教えて頂きました。常に私たちゼミ員を自分の子供のように心配したり、思って下さったりと、私たちゼミ員の第二の父のような存在でありました。いつもご心配をおかけしてしまい申し訳ございません。水野基樹先生に心より感謝を申し上げます

そして、部活動や卒業論文など忙しい時期なのにも関わらず、アンケートに協力していただいた大学3年生の皆様、また、このアンケートを代理でお願いをして頂いた4年生の皆様、本当にありがとうございました。卒業論文を通して、ここまで無事に大学生活を送ることが出来たのは周りの方々からのご指導や励ましがあつたからだ実感することができました。

来年度からは、順天堂大学、そして水野ゼミで学んできたことを生かして社会のために全力で働きたいと思えます。4年間本当にありがとうございました。